



開校34周年

三小だより

令和5年10月31日 発行
<11月号>
江戸川区立南葛西第三小学校
校長 佐久間 貴広

日頃の学習の成果を発揮し、さらに成長する場

2学期は、様々な行事が計画されています。10月だけでも、開校記念集会、体育大会（6年）、イングリッシュ・キャラバン、三小まつりなど、たくさんの行事がありました。行事も教育活動ですので、学びの場でなくてはなりません。行事を行うことが目的ではなく、行事を通して、日頃の学習で学んだこと、身に付けた力を生かしたり、成果を発表したりすることをねらいとして取り組んでいます。10月に行われた「三小まつり」はまさにそうした機会となりました。

今回の三小まつりでは、タブレットの活用もたくさん見られました。問題を入力したり、写真を貼ったりするなど、問題提示の道具としていろいろな学年で活用されていました。中には、モニターやプロジェクターに投影しているクラスもありました。ほかにも、遊びの時間を知らせるタイマーとして活用する、ゲームの点数を表示する、的あてに合わせて効果音を出す、ゲーム開始に合わせてBGMを流すなど、様々な場面で活用されていました。これらは、子供たちのアイディアをもとに「活用」しており、子供たちにとって、日頃使用している一人一台タブレット端末が学習用具の一つとして身近なものになっていることがよく分かります。

また、三小まつりでは、異学年交流も大きなねらいの一つなのですが、お客さんに笑顔で対応する、小さな子に膝をつけて目線を合わせて教える、割り箸鉄砲のゴムをつけてあげる、台車に乗っている子の年齢や様子に合わせて押すスピードを調整する、「どちら様が挑戦しますか。」と敬語でやり取りする、順番待ちしながら違う学年の子同士で遊びについて話すなど、異学年の交流を通して相手に合わせて対応したり、みんなで一緒に楽しんだりする姿がたくさんありました。

他にも、初めはセリフを見ていたけれど、回を重ねるごとに滑らかになる説明や、アレンジされる説明。人前で話すことが苦手だろうと思われる子も、目をつぶりながらお店の宣伝をし、だんだん自信をもって宣伝するようになっていく姿など、行事という日頃と違う環境だからこそ頑張れたり、力を発揮できたりする子もいました。

さらに、的あてで使った輪ゴムや玉をすすんで拾ったり、「補充、補充。」と言いながら宝探しの宝を隠したり、遊んでいるうちに壊れたところに気付いて直してまた使えるようにしたりするなど、一人一人が役割を考えて行動する、自分がすべきこと、できることをすすんで行う子がたくさんいました。そして、こうした一人一人の頑張りの相乗効果で、場の雰囲気に関心されるようにさらに変容していく子供たち。学校全体が学び合いの場となりました。

最近は、ゲームやSNSなどデジタルなもので遊んだり、人とつながったりすることが多いですが、こんなにもアナログな活動を通して、楽しさや満足感を味わうことができました。また、遊びを提供する側を経験することで、人に楽しんでもらう楽しさや喜び、達成感、自己有用感を感じられたというのは、三小まつりならではの貴重な経験だったと思います。

今後も「三小まなびピア」をはじめたくさんの行事を予定しています。一つ一つの行事を通して、行事ならではの頑張りが成長が見られることも、ぜひ楽しみにしていただけたらと思います。

～三小まつりの様子～

特別活動部 佐藤 英美

10月14日(土)に三小まつりが開かれました。1年生にとっては初めての三小まつりでしたが、グループごとに声を掛け合いながら楽しんでいました。2年生は初めてお店を出し、飾りや遊ぶ物を工夫し、お客さんに伝えるよう、頑張って説明する姿が見られました。3～5年生は、昨年よりどの学級も、お店の内容も説明の仕方も上達していました。6年生にとって最後の三小まつりは、学年のよさがよく出ていました。体育館ならではの遊びを考え、一人一人が役割をきちんと自覚し、全員で三小まつりを盛り上げようとしていることがよく分かりました。下級生への説明も、「さすが!」という丁寧さでした。子供たち一人一人が三小まつりでの経験を今後に生かし、活躍してくれることでしょう。ルールを守って協力し、みんなが楽しめる三小まつりになりました。



～江戸川区名人への見学(3年)～

3年3組 担任 瀧澤 祐子

10月5日(木)に3年生は社会科見学で、篠原風鈴本舗一之江、一の江名主屋敷、草薙農園にバスで行きました。事前に社会科で学習をし、当日質問をすることまで考えて準備もしました。行き帰りのバスの中では、説明を聞きながら車窓から見える町の様子を眺めました。篠原風鈴本舗一之江では、ガラスを溶かして丸める工程を見学させてもらい、その熱さにびっくりしました。名主屋敷では昔の家の造りを見ることができました。草薙農園では小松菜を収穫する体験をし、農家さんの苦勞が少し分かりました。どの場所でも質問をしてメモを取り学びを深める子供たちの様子が見られました。今後は新聞の作成や国語で学習のまとめをしていきます。



～葛西りんかい探検隊～

5年1組 担任 戸邊 俊一

10月27日(金)に5年生が葛西りんかい探検隊に参加してきました。講師の方に生き物がいるような場所や探し方を教わりながら、みんなの目と手でモクズガニ、トビハゼ、スナモグリなど様々な生き物を見つけてくることができました。中でもトビハゼは、東京都の絶滅危惧種になっているようで講師の方も驚いていました。珍しい生き物が見付かったり大きなカニが見付かったりするたびに見付け方や捕り方を情報共有していたり、なかなか生き物が見付けられない友達に声をかけて一緒に探したりと子供同士での学び合いの姿も見ることができました。また、生き物を探す中で、コメツキガニが砂の団子を作ることで干潟の砂がきれいになっていくことや、生き物が巣穴を掘ることで栄養が干潟の中でめぐっていることなど干潟の環境についても教わるすることができました。

